

トンガレポート<1>

岐阜県の皆様はじめまして。私は 2016 年 10 月 12 日より青年海外協力隊のシニアボランティア、卓球隊員として南太平洋のトンガ王国に派遣されました。

トンガに到着後、まだあまり月日が経っていませんので最初はこの国について感じたことや生活面についてお伝えします。

1、第一印象

① トンガの人々

トンガ到着時は飛行機の遅れもあり深夜でした、空港には日本人の JICA 担当者のほかにトンガ人の男性スタッフ 2 名の出迎えを受けました。事前にトンガの方々は体格がよいと情報を得ていましたが実際に会ってみるとその通りで、簡単な挨拶と握手の後、我々 5 名のスーツケースを片手で軽々と車に積み込むトンガ人スタッフ姿は大変頼もしく印象的な思い出となりました。

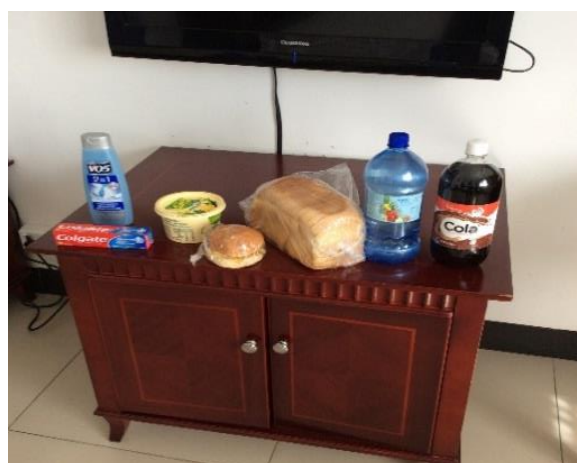
後日、大相撲の元横綱 武蔵丸関 の父親の出身がここトンガであり郊外に実家もあると知りました。どうりで体格はもとより、独特な顔つきに似た方々がいらっしゃるのに納得しました。

トンガは元々フレンドリーアイランドとして知られており、親日国家という点もあってか全体的にどなたも表情が明るく道ですれ違う際も目線が合うと軽く会釈されるのでこちらでも親しみがわきます。

皆さんおしゃべり好きで特に女性同士の大きな笑い声が目立ちます。街中のちょっとした道端や広場、レストランやカフェ、もちろん各家庭内でも 2 人以上集まれば冗談のかけ合いによる大変大きな笑い声がどこにいても朝から晩まで聞こえます。国民全体がそういった気質のため、信じられないことにこの国に来て現地の方が真顔で怒っている場面に私はまだ一度も出会ったことがありません。

②物価と食べ物

トンガ到着翌日に購入したのが右の写真の 7 点です。島国はほとんどの物に輸送費がかかるため物価が高いという印象がありました。右からコーラ(1.5L) 200 円、水(1.5L) 100 円、食パン 75 円、玉子サンド 100 円、マーガリン 250 円、歯磨き 150 円、シャンプー 200 円 で、日用品について物価は思ったほど高いと感じませんでした。





左の写真はホテルから現在の住居に引っ越し直後、大家さんからいただいたトンガ料理です。小さいお皿は「オタ・イカ」（新鮮な魚という意味）という生マグロの切り身に少々野菜とスパイスを加えココナツミルクであえたものです。日本の刺身に似ています。アルミホイルの料理はルーという葉っぱと羊の肉の蒸し焼き、エビとその右上の茶色いものはタコで両方ともボイル

されていました。紫色のものはサツマイモ、黄色いのは木の実です。写真を撮る前には大皿を覆い隠すほどの豚の丸焼きの一部が乗っていましたが、即座に一人で食べるのは無理と判断して大家さんにお返ししました。この料理もしばらく自分で眺めたあと全てプラスチック容器に移して隊員の宿舎に運び4人がかりでいただきました。オタ・イカとタコの煮物がおしかったです。トンガは島国ですが意外に魚介類の値段が高いということの後日知りました。これはかなりの高級料理だったと思います。

右の写真はトンガ卓球協会の会長さんからいただいたものです。左からココナツ（表皮処理済み）、パパイア、バナナで、すべて自宅の庭で採れるそうです。このほかマンゴーの木がいたる所にありますし、この時期はスイカが路上販売されています。日本のスイカと違い縦長の形で大きさにより1個150～500円程度です。



フルーツはふんだんに、安く（場合によって無料）で手に入ります。もともとトンガではシェア（共有）の文化・習慣があり食事においても分け合って食べる場面が見受けられます。こういった文化や習慣が笑い声の絶えない明るい国民気質を作り出しているように感じます。

③ 日曜日

トンガに来て違和感を覚えるのは「日曜日」です。日本で日曜といえば大半の方がお休みをされ、どちらかというと楽しみな曜日かと思えます。もちろんここトンガでも日曜は休日なのですが、日本と異なり「大半」ではなく「すべて（全国民）」が休みます。日曜日は仕事をしてはいけないということが法律で決められているためです。すべての商店をはじめ、空港や離島を結ぶフェリー、バス・タクシー等の交通機関すべてが止まります。空港がお休みということは日曜日には海外から誰もトンガに来れないし、誰もトンガから外国に行けないということです。現代においてこの徹底ぶりは見事なものです。

ではトンガの方々はどうされているかというと、ほとんどすべての方が敬虔なキリスト

教徒のため朝から教会に行きお祈りと讃美歌などの歌を合唱して過ごされています。そのため首都の中心部、普段はにぎやかな通りや市場付近でも特に午前中などはまったく人影がなく閑散とした不思議な雰囲気になります。

日曜の外出は OK なのですがスポーツは禁止のためジョギングする人の姿もありません。ごく一部の中華や韓国料理のレストラン、海沿いの外国人向けホテルだけが例外として営業しています。たまに私たちもそういったレストランを利用することもあります。基本的には「静かに」日曜を過ごしています。

④ 海

右の写真はトンガ到着 2 日後にホテルから徒歩 5 分の海岸で撮ったものです。海はきれいです。ハワイやグアム、サイパンのようにリゾートホテルが立ち並び砂浜で海水浴といった環境ではありません。



トンガの人々はあまり海で泳ぎませんし、人前で肌を見せる習慣がないため泳ぐとしても「水着」ではなく「着衣」(Tシャツとハーフパンツ等)のまま泳ぎます。写真を撮影したのは土曜日でしたが、付近では数名の子供たちが海に入っただけで大人の姿はありませんでした。本島の郊外にリゾートホテルがありますが、どれも小規模です。きれいな海という絶好の観光資源を持ちながら開発は進んでいない様子です。前述の日曜の件も観光開発に遅れをもたらす一因かもしれません。



左の写真は本島から小舟で 15 分の離島の海です。徒歩で一周 30 分の小島で島全体が簡易的なリゾート施設になっています。幸いにもここは日曜ルールの適用除外です。往復の船代と昼食込で約 2,300 円。予約の必要もなくここでは「水着」で堂々と泳げるので天気の良い日曜に時々利用しています。

⑤ 動物

これも日本と異なり、生活と密接した空間に様々な動物がいます。主な種類は、猫・犬・鶏・豚・山羊・馬・牛といったところです。このうち、猫・犬以外は食用で、馬・牛は綱で木につながれているか柵の中にいるのが普通です。この中で猫はかなり少数派で、たまに数匹の犬に囲まれて身動きできずにいる姿を見ると気の毒になります。

あとは犬・鶏・豚について。この3種類の動物たちはどこかの家で飼っているのですが基本的に「自由」で、多分飼い主と思われる家を中心に外をうろつき適当に餌を見つけて食べています。

写真は我が家から道路をはさんだ草むらにいる豚と鶏です。豚は大きいものが近づいてくると迫力と威圧感を感じますが、人に危害を加えることなく自ら立ち去っていくので問題ありません。鶏も人の姿を見かけると逃げていきますが、数が多いのと朝から晩までその鳴き声に悩まされています。鶏は飛べるので勝手に自宅の庭に侵入して特に明け方に一羽が鳴き出すとあたりの鶏が一斉に呼応し、一度に目が覚めて閉口します。



一番の問題は「犬」です。日本では基本的に野犬はおらず各家庭内か屋外の場合は首輪につながっていますが、トンガでは前述のように飼い犬でありながら首輪で管理するルールはなくみんな「自由」で子だくさんなため都市部、郊外を問わず数が相当多く動物の中で一番幅をきかせています。数が多いだけでなく彼らの気分次第で人や自動車、自転車を群れで威嚇して追ってくるので厄介です。自分も歩行中や自転車乗車中に何度か危ない目にあいましたが何とか危機回避できました。日々犬には注意する必要がある、生活面で余分な面倒を感じながら過ごしています。

そのほか、カラスほどの大きさのコウモリも目にします。最初は気づきませんでしたが大きな木の上のほうでキーキーと鳴き声がしたので目をやると大きな黒い塊がいくつかぶら下がっており、後日それがコウモリとわかりました。

以上、初回はトンガ王国についての印象と生活面について感じたことや日本と異なる点を紹介させていただきました。ここには紹介できませんでしたが生活面や考え方の違いにより日々さまざまな苦勞に直面しながらも、ここにいること自体自分で選んだ道であること、自分はトンガと日本の懸け橋になる役目を担っていることを忘れず頑張っています。

この先も日本と生活面で異なることや、卓球の指導状況についてできる限り情報発信していきたいと思っていますので応援いただきますようよろしくお願いいたします。

2016/12/31

青年海外協力隊 シニアボランティア

2016年度 2次隊 卓球隊員

西岡 昌彦